

「Leather Life is My Life」レザーソムリエのための無料情報誌

レザーソムリエ ニュース



2022年12月号

vol.19



メンテナンスこそ「愛」なんです

コロンブス、
究極の靴磨き

シューケアのプロ・三橋弘明さん
は、「カラリスト」の肩書ももつ。
顧客の要望を受けて靴クリーム
を調合するという

メンテナンスこそ「愛」なんです

コロンブス、究極の靴磨き

購入はスタート地点。そこから育てていくのが、革製品の楽しみでもある。
創業100年を超える、シューケア製品メーカーの老舗「コロンブス」で
メンテナンスの極意、また靴磨きの歴史について聞いた。



1950年頃の靴クリーム。「最高級防水性」の文字が示すように、未舗装の道も多かった当時は、靴のツヤだけでなく防水性を上げることも重要だった

皮革製品の進化と共に歩む レザーケア製品の歴史

「革製品って、人類が身に付けてきたアイテムの中では、もっとも古いもののひとつだと思います」

コロンプスの三橋弘明さんはそう話す。いわれてみれば原始、我々の祖先は野に山に獲物を追い、その肉を食したあとには皮を衣服や靴に利用してきた。それがいまでも脈々と、生活の中に息づいていると思えば感慨深い。

「皮革製品のケアにおいて、何よりも重要なのは『油』。皮の内部は繊維で構成されており、十分な油がいきわたることで繊維が整います。大昔の人たちも、装具品のケアとして油を塗ったりしていたんじゃないかな…なんて、想像するとちょっとわくわくしますよね」

コロンプスの創業は、いまから100年以上前の1919年。靴クリームも製造していたが、メインは靴メーカー向けに卸販売する塗料だったという。

「まだまだ一般には洋装が普及しておらず、小売りの靴クリームの売り上げは限られたものでした。それよりも、業界におけるメインは軍靴。この製造過程で使用される塗料、そしてそれをケアするための軍人さん向けの靴クリームが、創業間もない頃の主力製品だったと聞いています」

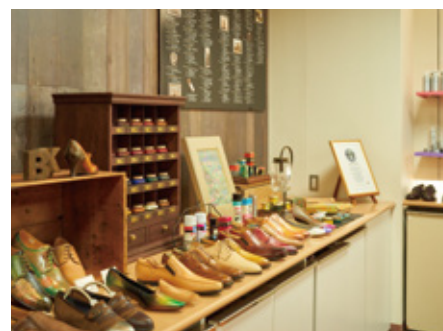
その後終戦を機に、高度経済成長期へと向かう日本。一般向け靴クリームの販売量はぐんぐん伸び、ついに1985年、あの大ヒット商品の誕生となる。

「グリップしやすいボトルの先端にスポンジのついた『ナイトリキッド』シリーズです。手を汚さずに、気軽に靴をお手入れできるということで、爆発的なヒットとなりました。いまでもコロンプスの代名詞といえる商品です」

あれから40年近くがたち、時代も変化。人々の価値観も変わり、また多様化していると三橋さんは言う。

「身だしなみとしての靴磨きはもちろん、趣味として嗜む人も増えてきました。靴クリームやワックスに含まれる油分ひとつとっても、動物性、植物性、鉱物性など種類ごとに、革の経年変化の様子も異なってくる。楽しみ方の幅が、以前と比べてぐんと広がってきた実感はありますね」

コロンプスでも、2008年には上級ブランド「^{ブート}ブラック」を立ち上げた。既存のクリームを使えば誰でも均一に仕上げられるのに対し、Boot Blackは磨き方次第で好みのツヤに調整することも可能だという。次ページからはこのBoot Blackのアイテムを使い、究極の靴磨き方法を伝授いただく。



上／大ヒット商品「ナイトリキッド」シリーズ。中／さまざまな素材、デザインの靴に合わせた商品が開発・販売されている。下／「Boot Black」の靴クリームは、40色以上がラインナップ。靴の色に合わせて楽しめる

レザー上級者のための 究極のシューケアを学ぶ

「一般の方からは、『シューケアは面倒』という声を多く聞きますが、レザー好きの読者の皆さんなら、その心配は無用ですね。逆に『汚したり傷めたりしてしまったらどうしよう』といった不安をもつかもしれません。でも、革の仕組みと道具の性質、手順をしっかり理解していれば、失敗するリスクは少ない。安心して取り組んでほしいですね」

ほこりやゴミを落とすブラッシングは、履いたら都度おこなうのが理想的。クリーナーを使ったクリーニング、クリームを使った靴磨きは、最低でも月に1回は取り組んでほしいと三橋さんは話す。

「手に取ってしっかりとケアすることで、かかとの減りなどにも気づけます。きちんと靴を見てあげることが、シューケアの第一歩です」



START!



履き続けてツヤのなくなった状態。数十万円する高級靴を買っても、ケアなしで履き続ければ数カ月で革が割れてしまうこともあるという。定期的なメンテナンスが不可欠なのだ

++++++ 使うのは、このアイテム ++++++



左上から時計回りに、シュークリーナー、ポリッシュクロス、クリーニングブラシ（馬毛）、シュークリーム、ポリッシングブラシ（豚毛）、油性ツヤ出しクリーム（ワックス）。今回はコロンプスの上級ブランドである「Boot Black」のアイテムを使用

1 ほこり取りブラッシング

馬毛のブラシを使い、全体をブラッシング。馬毛は繊維が縦に走っており、ほこりが毛に付着しづらいという特徴がある。かかとからつま先へ、同じ方向に繰り返しブラシを滑らせるのがポイントだ。金具も、きちんと外してブラッシング。ここにほこりが残っていると、湿気を含んでカビの原因になることもある。



POINT

コバの隙間などは、ゴシゴシこすると汚れが中に入ってしまう。一方方向にブラシを動かし、かき出すように。

2 クリーニング

シュークリーナーをクロスにとり、かかとからつま先へと靴の表面を軽く滑らせていく。表面のツヤが消え、マットになればOKだ。水性のクリーナーが革の肌目を広げて中まで入り込み、汚れや古いクリーム、ワックスを浮かせてくれるので、余計な力は不要。逆にこすりすぎると開いた肌目が元に戻らず、傷みの原因になる。



POINT

クロスの汚れた面にクリーナーをつけると、クロスの汚れを靴に戻してしまうことに。必ず毎回きれいな面を使う。

3 靴クリームを塗る

クロスのきれいな面にクリームをとり、かかとからつま先方向へと伸ばしていく。ハンドクリームを塗るような感覚でごく軽く、滑らせるように。クリーニングで開いた革の肌目から油分が浸透し、ロウが表面に残ることでツヤが生まれる。クリームの量は、片足でコーヒー豆1粒ほどが目安。多すぎても光らないので注意。



POINT

黒靴にあえて赤や青のクリームを使い、微妙なニュアンスを楽しむのも一興。上級者にこそ楽しんでほしいテクニックだ。



4 ツヤ出しブラッシング

靴クリームを塗ったあとは、馬毛に比べてコシのある豚毛でブラッシング。毛がしなすることで、余分なクリームをかき出してくれる効果がある。ここでも力はいれずにごく軽く、全体を滑らせるように。ミシン目や履きじわなどに残ったクリームまで、毛先が上手に取り除いてくれる。仕上がりのツヤに大きな差が出る重要な工程だ。



POINT

馬毛(右)に比べ、植えの密度が低い豚毛ブラシ(左)。毛同士が干渉せず、振り子の原理で効率よくクリームを払ってくれる。



5 クロスで仕上げ磨き

ブラッシングの「点」をすり抜けてしまうクリームを、クロスの「面」で拭き取っていく作業。ここでも力を入れず、表面全体を滑らせるように拭き上げる。クリームが残っていると、光沢が出にくくなるだけでなく、ほこりが付着する原因に。また、洋服に色移りして、汚してしまう恐れもあるので入念に。



POINT

金具やステッチ部分には、どうしてもクリームが残ってしまいがち。クロスを指にまきつけて、細かく拭き取ろう。

もうひと手間!

ワックスで鏡面仕上げ



手順⑤までも十分だが、パーティなどの華やかな場に出かける際には、ワックスでさらにツヤ出しを。クロスにとったワックスを靴の表面にのせ、そこに水を少量つけて磨いていく。水が革の毛穴を開き、そこをワックスのロウが埋めることで、ツルっとした鏡面に。メイクのファンデーションと同じ原理だ。

FINISH!



ワックス磨きまですることで、美しい鏡面に仕上がった。表面をロウの膜で覆っている状態なので、防水性、保護性もアップ。ただし定期的なワックスを取り除き、クリームで油分を補給しないと革が割れてしまう。クリーニングを忘れずに。

Data



コロンプス

住所: 東京都台東区寿4-16-7
電話: 03-3844-7111
www.columbus.co.jp/

ソムリエとしての第一歩を

東京都墨田区、ここはものづくりの街。古くより多彩多様な職人が集まり、江戸・東京のものづくりを支えてきた下町である。今でこそ東京スカイツリーを中心に観光客で賑わうイメージがあるが、それまでは職人たちの往来が中心の職人町であった。現代でもその気質は残っていて、歴史に裏付けされた技術と伝統が脈々と受け継がれている。その中でも、日本有数の集積地であるものづくりがある、それが「製革」、タンナーだ。革を知る上で、革のスペシャリストとしての根幹となるであろう、そんな革づくりの現場に、「レザーソムリエBasic(初級)資格試験」合格者たちが集った。レザーソムリエの第一歩として行われた、合格者たちのタンナー工場および東京皮革技術センタ



ーを見学した様子をレポートしよう。

意外に知られていない？

東京の地場産業、製革業「タンナー」

今回、見学会にご協力いただいたのは、羊革を得意とするタンナー「LEATHER LAB TOKYO produced by T.M.Y's」。歴史あるタンナーが軒を連ねる墨田区の一部の中でも、2021年に新設した新工場がひと際目立つタンナー。なめしから染色、各種加工までを一貫して行う。近隣の小学生から一般の方まで、見学会やワークショップなどにも力を入れており、本革の良さの周知にも尽力されている。

エビデンスあるデータが、 知識のボトムアップを推進する

「東京都立皮革技術センター」は、東京の伝統的地場産業である皮革産業の振興を支える施設。施設内には、製革に関連する設備が整っており、タンナーだけでなく、メーカーや小売業、個人の方までが革の試験や相談、さらには制作を目的として訪れてくる。ゆえに、常に新しい情報や技術に触れ



ることができる、ものづくりに携わる人たちにとってはまたとない有益な場所だろう。今回の見学会では、同センターの設備紹介から、(一社)日本皮革産業連合会事務局長、元所長の吉村圭司さんによる講義が行われた。

現場で得た体験×知識の経験が

レザーソムリエの信頼向上につながる

今回の見学会、合格者の特典としての開催ではあったが、レザーソムリエ資格取得が、奥深い本革の良さを知ることの第一歩であることを参加者一同感じたのではないだろうか。見学後に、他のタンナーや製品工房などの見学もしてみたいなど、より知識・体験を広げたいと答える参加者も。また、「レザーソムリエProfessional(中級)資格試験」の受験を希望する方も多く、さらなるレザーソムリエたちの育成、活躍が期待できそうだ。より多くの人に本革の良さを伝えていく意味でも本事業のさらなる発展が望まれる。

さらに詳細なレポートはこちら。また、今後も合格者の方に向けて工場見学会を開催します。

レザーソムリエ皮革講座

講師の紹介

レザーソムリエ資格取得に向けた情報を、皮革に関するプロフェッショナルであるレザーソムリエ皮革講座の講師が一問一答形式でお届けします。



Interview

吉比産業株式会社
代表取締役社長

吉比 浩

吉比産業株式会社は明治15年(1882年)に大阪心斎橋筋安土町に本格的な革商人として「吉比為商店」として創業。昭和11年(1936年)には株式会社に組織変更、昭和18年(1943年)吉比産業株式会社に社名変更。平成24年(2012年)に創業130周年を迎える。レザーソムリエ事業においては皮革講座講師などを担当している。

ーレザーソムリエ資格取得を通して身につく、素材としての皮革の面白さ・可能性について教えてください。

皮革素材がどのようにして作られ、使われるのかという背景を体系的に知ることができるといえます。例えば、皮革講座を受講すれば、一つとして同じものがない皮革素材の風合いなどを実際に見て触る体験ができ、より理解が深まると思います。

ー皮革や革製品について一定の知識を有する、レザーソムリエ資格取得者に期待することをお教えてください。

レザーソムリエ資格を取得したことで、レザーに対する価値観も変化し、その魅力をより一層強く感じるようになったと思います。習得した知識は、より愛着をもって革製品を使用したり、革を楽しむための良い判断・精査基準となるでしょう。

ーコロナ禍以降の皮革業界と市場のトレンドの変化について、お気づきの点をお教えく

ださい。また今後の見通しについても意見ございましたらお教えください。

コロナ禍により人との接触が制限されるようになりました。それから3年余りが経過し、人との接触や物の販売は、新しい生活様式に適応してきました。一方で、皮革は触感や風合いといった、触ってわかる感覚が重要な商材です。そういう意味では、今後も、皮革本来の特徴を重要視する需要は存在し続けるでしょう。

ー皮革業界におけるSDGsや環境配慮の取り組みについて、ご存じのことや、ご自身の理解などをお教えください。また今後の展望などもございましたらお書きください。

革は食肉の副産物として古代より利用されてきました。そういう意味では持続可能な資材と言えると思います。しかし、時代の変化に対応して変化、進化をしないといけないところもあると思います。皮革の「感覚で楽しむ」というところには重きをおきながら、新しい時代に合った革を作っていけたらと思います。

第6回レザーソムリエBasic(初級)資格試験、 第1回レザーソムリエProfessional(中級)資格試験が開催されました。

2022年11月6日(日)に第6回レザーソムリエBasic(初級)資格試験と第1回レザーソムリエProfessional(中級)資格試験が開催されました。今年も昨年に引き続き全国テストセンター(CBT方式)での開催となり、全国各地より受験のお申込みをいただきました。また、Professional(中級)は今回が初めての開催となり、Basic(初級)と合わせて多くの方が受験されました。誠にありがとうございました。

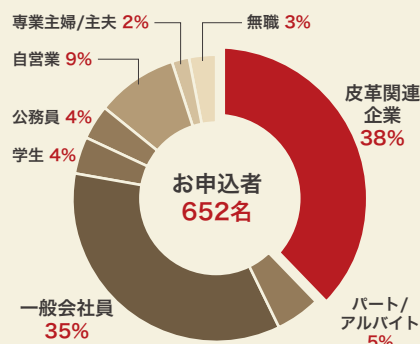
総お申込者数は昨年より大幅に増え、Basic(初級)は506名、Professional(中級)は146名の方から受験をお申し込みいただき、Basic(初級)は過去最多の受験者数となりました。全体の平均年代は40代となっており、最年少10代後半の方から、最年長70代の方までが、レザーソムリエ資格試験に挑戦されました。

全体の4割程度の受験者の方が、皮革関連企業に所属されている方で、革製品を扱う小売業の方が最多となっておりました。また、

回を重ねるごとに、一般の方からの受験が多くなってきております。Basic(初級)を取得された方は、ぜひ今後Professional(中級)へのステップアップをご検討ください。

2023年も、11月ごろに資格試験を開催する予定です。受験するにあたって、多くの方が皮革講座を事前に受講されております。2023年の皮革講座の開催につきましては、レザーソムリエ公式HP、各種SNS、レザーソムリエニュースなどでお伝えして参ります。

■ 資格試験お申込者の業態別構成比



■ 資格試験受験者の居住地域・年代

	19歳以下	20代前半	20代後半	30代前半	30代後半	40代前半	40代後半	50代前半	50代後半	60代前半	60代後半	70歳以上	総計
北海道			4	3	3	3	3	2					18
東北地方			3	4	4	7	6	4	1		1		30
関東地方	1	37	33	33	45	40	40	23	28	4			285
中部地方	1	4	7	9	7	14	15	6	3		1	1	68
関西地方		10	21	21	28	29	24	23	9	3	1		169
中国地方		1	4	1	1	4	4	5		1			21
四国地方				1	2	1	1	2	1	1			9
九州地方		3	4	2	5	5	9	6	5	4	1		44
沖縄			2	1	1	2	1	1					8
総計	2	55	78	75	96	105	103	72	47	13	5	1	652

2023年Professional(中級)の年間スケジュール

	開催日	会場
① 皮革講座Professional(中級)	2023年3月11日(土)	東京会場
② 皮革講座Professional(中級)	2023年6月14日(水)	東京会場
③ 皮革講座Professional(中級)	未定	大阪会場
④ 皮革講座Professional(中級)	未定	大阪会場
レザーソムリエProfessional(中級) 資格試験	2023年11月ごろ	

東京会場

台東区民会館 会議室
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-6-5
東京都立産業貿易センター台東館

大阪会場

未定

※最新の情報はレザーソムリエ公式HPにてご確認ください。



レザーソムリエ ロゴマーク使用の案内

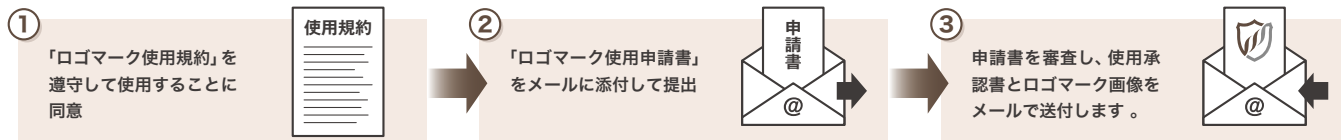
日本革類卸売事業協同組合が実施する「レザーソムリエ資格試験」の合格者は、取得した認定級のロゴマークを、「皮革や革製品について一定の知識を有する証」として使用することができます。

■ 使用申請手続きについて

レザーソムリエ ロゴマークの使用状況を把握し、適正な利用を維持するために、使用目的・期間等を記入した「レザーソムリエ ロゴマーク使用申請書」をメール<ls@leather-sommelier.jp>に添付し提出していただきます。

ロゴマークの使用を承認した場合は、申請されたメールアドレスあてに使用承認書とロゴマーク画像を送付します。

レザーソムリエ ロゴマーク使用規約、ロゴマーク使用申請書は右記QRコードからダウンロードをお願いします。



JAPAN LEATHER AWARD 2022




×

b8ta

新宿マルイ
エクスペリエンスルーム

2022.12.01 → 2023.01.06

レザーアワード受賞作品一般公開

入場 無料

b8ta-Tokyo 新宿マルイ エクスペリエンスルーム 新宿マルイ本館1F
地下鉄「新宿三丁目駅」A1口より徒歩1分、JR「新宿駅」東口より徒歩5分

さまざまなひとたちの「声」を届けたい

TIME & EFFORT

THE QUALITY DESIGN LEARNER



日本の革と革のもののづくりの魅力を発信する場として




ジャパンレザーVOICE

▶ YouTube
“JLIAtv”



一般社団法人 日本皮革産業連合会
YouTube公式チャンネル